

左からアトリエ・オイのバトリック・レイモン、アルマン・ルイ、オーレル・エビ。日本の一瞬の自然を切り取った和紙モビール「本美濃紙ガーデン」が、ここでは雲のようにも見える。  
From the left, Patrick Reymond, Armand Louis, and Aurel Aebi of atelier oi. The washi mobile Honminoshi Garden that expresses a stolen moment in Japanese nature, here looks somewhat like a cloud.



Photo by Yoshiaki Tsutsui

Cover interview

# atelier oi

アトリエ・オイ

建築家/デザイナー  
Architect/Designer

バトリック・レイモン、アルマン・ルイ、オーレル・エビの3人はともにスイス出身だが、文化的なバックグラウンドは様でない。彼らがアトリエ・オイを結成してから25年。3人組という“最小限の多様性”は、さまざまなものを巻き込みながら活動の領域と規模を広げてきた。そのクライアントのリストには、イタリアの主要な家具ブランドから、世界的なラグジュアリーブランドまでが名を連ねる。今年は日本でも複数のプロジェクトが進み、決まった作風を持たない彼らの有機的なアプローチが明確なイメージを結びつつある。

Although Patrick Reymond, Armand Louis, and Aurel Aebi are all from Switzerland, their cultural backgrounds vary. It has been 25 years since they formed atelier oi. This team of three (a number that is “the bare minimum for diversity”) has expanded its realm of activity while involving various elements. This year, they are conducting multiple projects even in Japan and their organic approach that doesn’t have a set style is about to establish a clear image.

差があるからエネルギーが生まれる。電気が生まれる原理と同じです。

—3人はどのように出会い、一緒に活動を始めたのでしょうか。その経緯や理由を教えてください。

**バトリック・レイモン** 私とオーレルは、ローザンヌのエコール・アテナウムでデザインを学んだ同級生です。彼とは当時からアイデアをシェアするのが楽しく、他者の視点をものづくりに生かすことの意義を感じました。個人単位で提出する学校の課題を、彼と一緒に制作したことも珍しくありません。アルマンは私と同じスイスのラ・ヌーヴヴィルという人口4,000人の小さな村の出身で、昔からの知り合いでした。

**アルマン・ルイ** 私はバトリックやオーレルと違い、船大工を養成する学校で学びました。スイスは内陸国ですが、湖が多いため船は重要な乗り物です。そこで木、アルミニウム、コンクリート、複合材など多様な素材の扱い方を身に着けました。製作の初期に立体模型をつくるのが船づくりの特徴で、その経験は今も役立っています。

**バトリック** あるとき、ベッドをテーマにした

デザインコンペティションがあり、学校の仲間と一緒に参加することになりました。そのときにアルマンも引き入れたのです。

**オーレル・エビ** 最初は6、7人で取り組んだのですが、ベッドができ上がったときに残っていたのは私たち3人だけ。特別な理由があったわけではなく、自然に淘汰されたのです。

**バトリック** 結果、そのベッドが優勝して、3人で活動していこうと決めました。次にバスルームのコンペがあり、そこに出品した作品も入選して、主催者から製品化を提案されました。それを機に設立したのがアトリエ・オイです。「オイ」とは、3頭の馬が引く馬車、トロイカの綴りに由来しています。

—アトリエ・オイの設立は1991年で、それから25年が過ぎたことになりました。3人はデザイナーとして、どのような関係で仕事に取り組んでいるのですか。

**オーレル** 私たちは性格も違うし、資質やバックグラウンドも異なっています。私はスイスの中

でもドイツ語圏出身ですが、バトリックとアルマンはフランス語圏の文化で育ち、アルマンはイタリア語も話します。そんな私たちには、バランスが取れていないというメリットがあります。例えば、ふたりが正反対のアイデアを持ち寄ったとき、もうひとりの意見によって簡単に方向性が決まることがある。釣り合った天秤のどちらかに重りを載せるようなものです。またデザインのアプローチにも違いがあるので、3人の立場はプロジェクトごとに変化します。差があるからエネルギーが生まれる。電気が生まれる原理と同じです。

**バトリック** 立場の変化については、ジャズ・トリオの即興演奏に近いかもしれません。隣のプレイヤーの音を聴きながら、次に自分がプレイするか、次も彼に任せるか、場面ごとに判断します。あるときは個人がフロントに立つし、あるときは3人が一緒にハーモニーを奏でます。**オーレル** 私たちがもう1つ重視してきたのは、アイデアを分かち合うことです。そして分かち

## 触ったり、感じたりすることで、頭で考えただけではないデザインが生まれる。

合うスタッフは、25年間で3人から30人へと増えました。物事は、細分化すればするほど小さくなる。しかし分かち合うと、関わる人の数だけ大きくなるのです。

—アトリエ・オイのデザインは、素材からアイデアを膨らませていくことが多いと言います。そのプロセスは、実際にどのように進んでいくのでしょうか。

**パトリック** 素材を手にしたときの私たちは、料理人にたとえることができます。まず素材の味見をする。そして他の素材との相性を考える。ちょうどいい調合や加工法を工夫する。さらにコンテクストを意識しながら一皿を仕上げていきます。完成した料理を味わって、次のレシピに生かしていくこともあります。プロジェクトによってさまざまなコンテクストや制約があるので、このプロセスは常に異なる結果を生み、有機的に発展していきます。

**オーレル** 私たちのスタジオはいくつものスペースに分かれていて、その中にマテリアテックと呼ぶ素材のライブラリーがあります。ここには約2万種類の素材がストックしており、日常的に手にすることができます。

—素材から発想したデザインについて、実例を上げて説明してもらえますか。



2009年にアトリエ・オイのオフィスで発表された「ダンサー」は、レーザーカットしたテキスタイルを回転させるシノグラフィ。15年にはイタリアの照明ブランド、アルテミデから製品化された。Les Danseuses unveiled at the office of atelier oi in 2009 is a scenography piece in which laser-cut textile is spun. Now a product edited by Artemide in 2015.

**アルマン** 例えば、2006年に発表した照明器具「アレグロ」があります。この照明器具は2つの要素によって構成されていて、1つは素材、もう1つは重力です。成形した金属の棒を吊るすことで、素材が宙に浮くオブジェとして制作したのです。デッサンからデザインを始めたら、こんな形は生まれなかったでしょう。私たちは、工房で金属の棒を折り曲げながら形を決めていきました。

**パトリック** そもそも私たちは、単に照明器具をデザインしようと取り組んだのではありません。アレグロのインスピレーションの源はベルギーやオランダの伝統楽器カリヨンで、音という要素も重視しています。フレームにロープを巻き付けたベッドのようなものを用意し、そこに横たわった人が下からアレグロを見上げます。金属の棒がぶつかると風鈴のように音を発し、その動きは光と影を変化させます。この作品はミラノでシノグラフィとして発表し、展示をきっかけに照明ブランドのフォスカリーニから製品化されました。またベッドは、B&Bイタリアの製品「リール」へと発展するという具合に、自らの探究が製品につながっているのです。

**アルマン** 一方、布を素材に使い、今度は遠心力を使ってデザインしたのが「ダンサー」です。布が振動しながら回転することで、新しい形を



パスタのファルファレの形状からインスピレーションを得てレーザーを立体的に加工し、クッション性を与えたハンモック。外部デザイナーが旅をテーマに家具や照明器具をデザインしたルイ・ヴィトンの「オブジェクト・ノマド」コレクションの1つ。A hammock inspired by the shape of a kind of pasta called farfalle. Leather is processed into a 3D form to provide cushioning. One of the items in Louis Vuitton's Objets Nomades Collection.

生み出すというシノグラフィでした。

**パトリック** さっき料理の話をしてきましたが、料理から素材の加工法を思いつくこともあります。ルイ・ヴィトンの「オブジェクト・ノマド」のためにデザインしたハンモックは、パスタのファルファレの形状がヒントになりました。ハンモックは体重をかけると安定しますが、その状態では身体を支える部分にクッション性はなく、硬く感じられます。快適さを向上させるために、ファルファレの立体的なりポンのような形をリベットで再現しました。

**アルマン** 素材を手で触ったり、口の中で感じたりすることが、頭で考えただけでは生まれないデザインを生むということです。

—「アレグロ」や「ダンサー」をシノグラフィと呼びますが、この言葉は空間を使った表現のことでしょうか。いわゆるインスタレーションとはどう異なるのですか。

**パトリック** シノグラフィは、舞台美術やミュージアムの展示空間について使われる言葉ですが、私たちは特定のテーマを伝えるための空間表現をそう呼んでいます。インスタレーションと共通する要素もありますが、それはより芸術的な表現を意味するものと考えます。人々に明確にテーマを伝えるためにデザインするシノグラフィとは区別しています。



2006年にミラノのスイス文化センターで行われたシノグラフィは、素材を起点にデザインするアトリエ・オイのアプローチが象徴的に表れた。その照明器具は翌年、照明ブランドのフォスカリーニ「アレグロ」と小型の「アレグレット」として製品化。また来場者が身体を横たえる筒状のベンチは、B&Bイタリアから「リール」として製品化された。A scenography performed at the Swiss Cultural Center Milano in 2006 symbolically expresses the approach of atelier oi that takes design with the material as the starting point. The lighting were commercialized by Foscarini as Allegro and the smaller Allegretto the following year. The benches on which visitors are lying were commercialized as Reel by B&B Italia.

—デザインとアートの違いが、シノグラフィとインスタレーションに対応するというのでしょうか。

**パトリック** そうですね。どのようなコンテクストでつくられるかの違いです。

**アルマン** インスタレーションは純度の高い表現であり、そこに私たちのエッセンスを凝縮させることもあります。そこで生まれたアイデアや手法を、次のシノグラフィやプロダクトに生かしていくのです。人々の興味を引きつけるという意味でも、大きなフックになります。

—今年7月にロンドンでオープンしたリモワのポップアップショップのインテリアも、やはり素材から発想したのですか。

**オーレル** このプロジェクトは、まず商品であるリモワのスーツケースを観察するところから始めました。それはアルミニウムのシートを素材とし、折り紙と同じ原理でシートを折り曲げて、立体としての強度をもたらしめています。構造上、角の部分は素材が余るのでカットして、その部分にプロテクターをつけます。このようなスーツケースの構造を、私たちは空間に応用しました。金属のシートをカットして、壁面に設置したのです。1年間限定のポップアップショップ

なので、簡単に早くつくれる点でもこの案は有効でした。これはブランドの魅力を伝えるシノグラフィでもあります。

**パトリック** 金属を折り曲げて強度を高めるというリモワのアイデアは、約100年前に発明された世界初の金属製旅客機、ユンカースF13から発想したものだそうです。そんなストーリーも、このプロジェクトの過程で参照しました。素材とともに、そうした歴史的なコンテクストがデザインの起点となり、空間を通して表現されています。

—今年のミラノサローネでは、岐阜県の本工、和紙、提灯などのメーカーと開発した一連のプロダクトが発表されました。ここでは素材からの発想とコンテクストからの発想が融合しているように感じましたが、どうでしょうか。

**パトリック** 岐阜県でのプロジェクトで最も重視したのは、この地のもづくりのノウハウでした。日本のものづくりで特に印象深いのは、日本文化そのものに加え、それを継承すること文化になっていること。木や紙などの素材について、私たちが足元にも及ばないようなノウハウが、岐阜県にはいくつもあります。リモワのスーツケースを観察するように、私たちは現地

を訪れて職人の手業をじっくりと観察し、より深く伝統を見ることは、より深く観察することと同じだと思いますし、伝統にたいのなら、まず人に会うことです。

**アルマン** 岐阜県にある日本刀の工房26代目で、700年にわたるノウハウを受けているそうです。これは尊敬すべきこと。ノウハウを私たちが生かすために、彼ら文化をどう解釈し、自分たちの文化とどうに交差させるかを考えます。

—日本で出会った素材について、特に印象的なものは何でしたか。

**パトリック** 飛騨産業の杉の圧縮材ですか。杉は家具の素材としては柔らかすぎず、木材を圧縮して硬くしたうえに、美しい生かす新しい素材をつくり出しています。

**オーレル** 杉の圧縮材は、触った感触のものでした。とても繊細で、サラッと一言葉では説明できません。この素材が椅子の表面を磨き上げながら、余分なものを取っていく感覚です。そんなプロセスを経てのが、「ギフォイ」コレクションの椅子です。



今年8月に岐阜県美術館でアトリエ・オイが手がけた「本美濃紙ガーデン」は、岐阜県特産の本美濃紙を折って用いたモビールを空間に配し、彼らが岐阜のメーカーとともに開発した家具や照明器具を展示した。  
Honminoshi Garden exhibited at the Museum of Fine Arts, Gifu this August was composed of mobiles made of Gifu's local specialty Hon-Minowashi paper hung in the space with furniture and lighting fixtures atelier oi developed with Gifu manufacturers.



今年4月にミラノで発表された飛騨産業の「ギフォイ」コレクションの椅子は、イタリアのダネーゼでも扱われる。飛騨産業が開発した国産杉の圧縮材目材を用いている。The Gifo Collection chairs from Hida Sangyo unveiled at the Milan Furniture Fair this April will also be handled by Danese in Italy. It employs compressed quarter-sawn cedar grown in Japan and developed by Hida Sangyo. Photo by Masayuki Hayashi

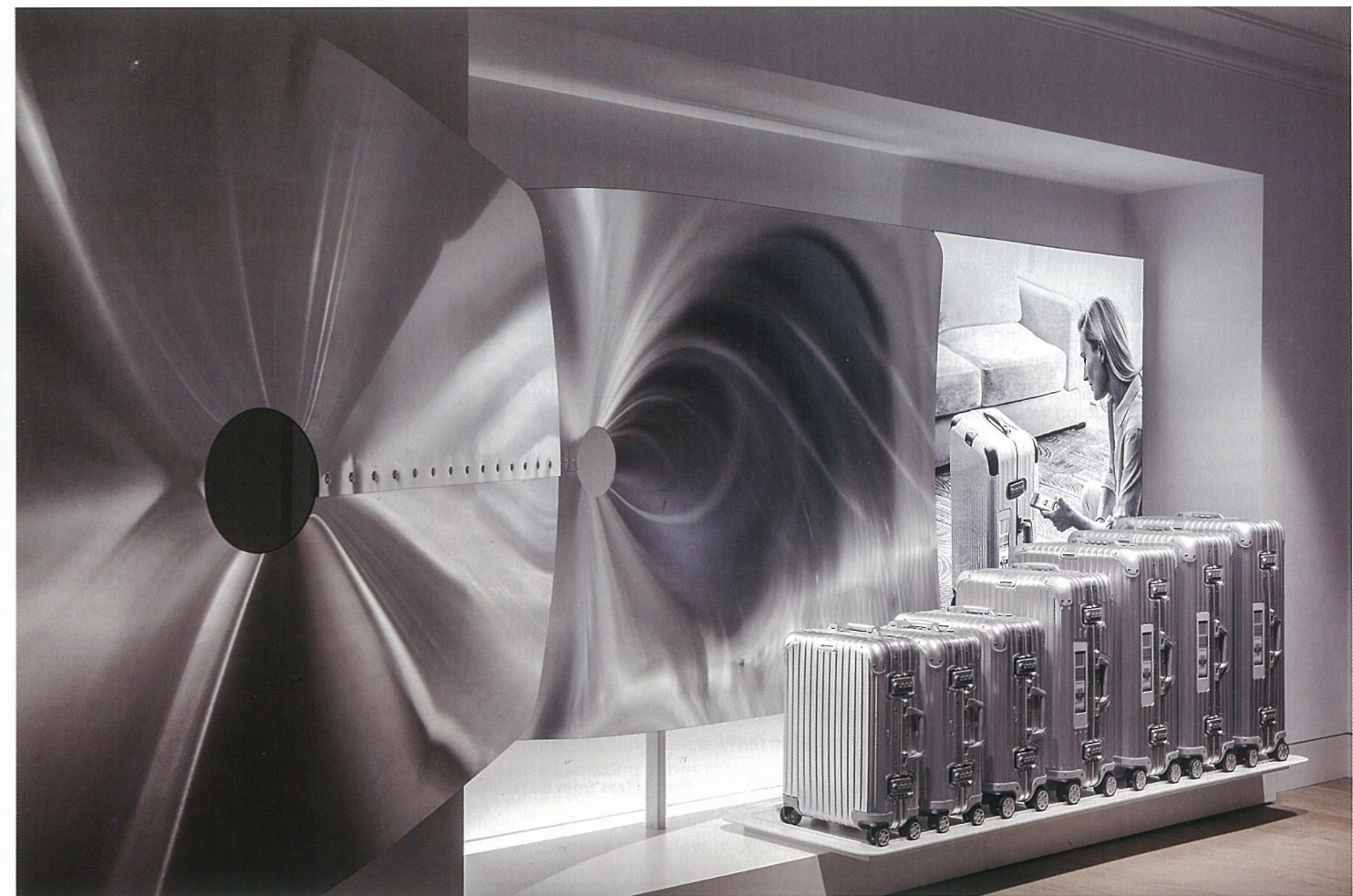
## より深く伝統を見ることは、 より深く未来を見ることと同じだと思います。

—スイスをはじめとするヨーロッパも、各国に優れたクラフツマンシップがあると思います。それらに比べて、日本のクラフツマンシップの特徴はどこにあるのでしょうか。

オーレル ノウハウを伝承しようという精神が根づいていること。また職人がつくったものを尊重しようという意識が高いこと。近年のヨーロッパでは、インテリアの施工業者に専門性を持つ職人がほとんどおらず、クオリティを保つのが難しくなっています。自分の手を汚してものをつくることに価値が置かれなからです。デザイナーの仕事も同じ。今は多くのデザイナーが、コンピュータの画面に向かうことに多くの時間を割いています。以前はスケッチに水彩を使ったり、描く紙を選んだり、豊かなプロセスがありました。

—アトリエ・オイは、自分たちを表現するときにしばしばマルチディシプリナリティという言葉を使っています。この言葉の意味するところを教えてください。

パトリック 私とオーレルが学んだエコール・アテナウムは、まさにマルチディシプリナリティのための学校でした。専門分野を深めながら、その専門性を超えて活動する人材の育成を目標としています。この学校をつくったアルベルト・サルトリスの考え方からは大きな影響を受けたし、彼と同時代の建築家には似た考えの人が多かったはず。彼はイタリア出身の建築家で、ル・コルビュジエらが設立したCIAM(近代建築国際会議)のメンバーでした。オーレル 建築を学ぶ学生がデザイン科の教授の話や作品を聞くことも、その逆のケースもよくありました。詩や芸術作品からインスピレーション



リモワのスーツケースの構造を観察し、歴史を遡って検証することで、特徴的な手法を見出して空間に生かしたポップアップショップ。素材感を生かした金属の曲面は、リモワのスーツケースが生まれるきっかけになった飛行機の機体構造のようにリベットで留められている。A pop-up shop making use of in the space a characteristic method discovered by observing the structure of the Rimowa suitcase and examining its history. The curved metal surface is fixed with rivets just like the aircraft that inspired the design of the suitcase.

を得たりもします。幅広い専門分野が交わり、建築やデザインの枠を超えることも厭わないのです。  
パトリック 私たちは日本の建築やデザインに、学生時代から強く惹かれてきました。倉俣史朗や内田 繁の仕事を尊敬し、マルチディシプリナリティを感じたのも、その理由の1つです。もし自分たちの事務所をスイスで設立していなければ、日本のデザイン事務所で働いていたかもしれません(笑)。今日、日本で複数のプロジェクトに関わっているのは偶然ではないのです。

—現在はものづくりの枠を超え、サービスや社会的なシステムのように形を持たないものもデザインの領域になってきました。こうしたムーブメントをどう考えますか。

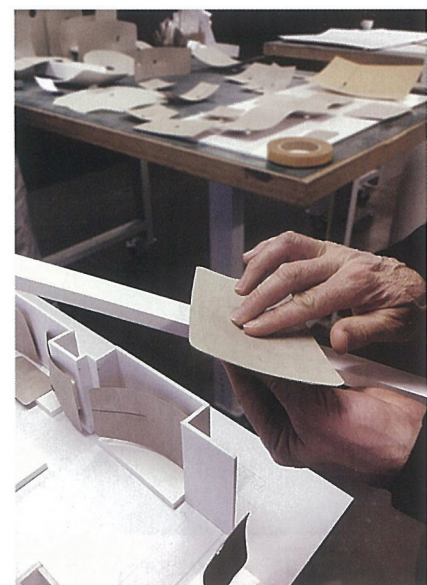
オーレル 私たちの生きる世紀は、物事が根本的に変化している時代。いつか物質的なデザインと非物質的なデザインが逆転することはあり得ると思います。現にウーバーはクルマを所有することなしに、世界でいちばん大きい

タクシー会社になっています。  
アルマン 私たちのデザインは、今のところ形のない領域にはありません。しかし社会的な要素は、形をつくるデザインにも確実に含まれています。社会が急速に変化するなかで、人がハッと立ち止まるものをつくるのも、その1つではないかと思っています。(インタビュー・文/土田貴宏) ④

アトリエ・オイ/ともにスイス出身のパトリック・レイモン(1962年生まれ)、アルマン・ルイ(66年生まれ)、オーレル・エビ(66年生まれ)が91年にスイスのベルン州ラ・ヌーヴヴィルで設立。各自の異なるバックグラウンドを生かした多様な作風と手がける領域の広さを特徴とし、家具、インテリア、建築、シノグラフィなどをデザインする。最近の活動では、岐阜県のメーカーとの協働で開発した一連の製品をミラノサローネで発表した「CASA GIFU」が話題となる。また、今年10月28日から11月6日まで、アクススギャラリーで初個展となる「アトリエ・オイ展 — material play」。11月11日から27日まで静岡県CCCで「atelier oi — inspired by material」を開催する。

<http://www.atelier-oi.ch>

In cooperation with Megumi Merlo



#### How did you three meet and decide to work together?

**Patrick Reymond:** Aurel and I were classmates studying design at the Ecole Athenaeum de Lausanne. Sharing ideas with Aurel since those days has been fun and made me realize the significance of making use of the viewpoints of others in making things. Armand and I are from a small village with a population of 4,000 called La Neuveville in Switzerland, so we had known each other from before.

**Armand Louis:** I, unlike Patrick and Aurel, studied at a school that trains ship builders. Since Switzerland has many lakes, boats are an important means of transportation. There, I learned how to handle diverse materials including wood, aluminum, concrete, and composite materials. Creating a 3D model at the initial stage of production is also characteristic to shipbuilding, and that experience is useful even today.

**Patrick:** There was a design competition on the theme of the bed, and we decided to enter it together.

**Aurel Aebi:** We started off with about 6 or 7 people, but by the time the bed was finished only three of us were left. It was the result of natural selection.

**Patrick:** As a result, the bed won the 1st prize.

Next came a bathroom competition, which we entered too and also won the prize. A manufacturer proposed to commercialize our entry. That inspired us to establish atelier oi. "oi" is a carriage pulled by three horses and it's derived from the spelling for "oi"ca.

#### What kind of relationship do the three of you have in terms of handling work?

**Aurel:** We all have different personalities, qualities, and backgrounds. I'm from a German speaking region in Switzerland, but Patrick and Armand grew up in a French speaking culture, and Armand also speaks Italian. So we have the advantage of being unbalanced as a group. For example, when two of us bring in completely opposing ideas, it's often the case that the direction is decided easily by the third person's opinion. Since we all have different approaches to design as well, the standpoint of each changes according to the project. Energy is generated because there is difference. It's the same principle as generating electricity.

Another thing we value is to share ideas. The staff we share ideas with has increased in the past 25 years from three to 30 as well. Things and events become smaller the more they are fragmented. But if we share them, they become as large as the number of people involved.

#### We hear you often expand your ideas from materials, but how is that process actually done?

**Patrick:** When we handle materials, we're like chefs. We first taste the ingredients. We then think about the compatibility of each material with others and devise ways to get just the right blend and processing methods. We then move on to complete the dish while being conscious of the context. We taste the dish and at times make use of it in the next recipe. Since there are various contexts and restrictions depending on the project, this process always bears different results and develops organically.

**Aurel:** Our studio is divided into a number of spaces, and in one of them we have a materials library we call Materiothèque. It's stocked with approximately 20,000 kinds of materials.

**Armand:** For example, the light fixture Allegro released in 2006 is composed of two elements: one is the material and the other is gravity. By hanging shaped metal rods, we created an *objet* in which the material floats in midair. If we had started its design from sketching, that kind of shape would not have been born. The form was finalized while bending the metal rods in various ways in the studio.

**Patrick:** To begin with, we didn't just tackle the task with the intention to design a lighting fixture. The inspiration for Allegro comes from a traditional musical instrument called a carillon, so we also placed importance on the element of sound.

We prepared a platform that looks like a bed with ropes wound around its frame, and a person lying on it looks up at Allegro from below. When the metal rods hit each other, they emit sound like a wind chime, and their movement changes the light and shadows. This work was unveiled in Milan as scenography, but the exhibition led to its commercialization and release from Foscarini. The bed was developed into a product called Reel and was released from B&B Italia. This is how our exploration leads to products.

**Armand:** Les Danseuses was designed using centrifugal force and fabric as the material. As the fabric rotates while vibrating, it ended up being a scenography that created new forms.

**Patrick:** Sometimes we also come up with processing methods from cooking. A hammock we designed for Louis Vuitton's Objets Nomades was inspired by the shape of a kind of pasta called farfalle. A hammock stabilizes when your weight is applied, but in that state the part where your weight is supported has no cushion and feels hard. To improve comfort, we reproduced farfalle's ribbon-like 3D form fix by rivet.

**Armand:** It suggests that feeling things by touching or putting them in your mouth can lead to design that wouldn't have been realized by just thinking in your head.

#### Does the word "scenography" mean expressions that use space? How is it different from an installation?

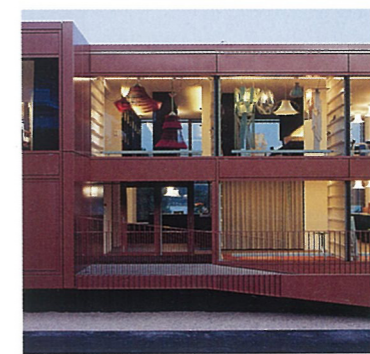
**Patrick:** The word "scenography" is used in stage art and museum exhibition space, but we use it as a form of expressing space to communicate a specific theme. There are elements that are common with an installation, but an installation represents more artistic expressions. We distinguish it from scenography that is designed to convey the theme more clearly to people.

**Armand:** As an installation is an extremely pure expression, we sometimes condense our essence in it. We make use of the ideas and methods born there in our next scenography or product. It functions as a great hook in the sense of attracting people's interest too.

#### Was the interior of the pop-up shop Rimowa opened this July in London also inspired by the materials?

**Aurel:** We started off by studying the suitcases made by Rimowa. Their strength as 3D products comes from using aluminum sheets as the material and bending them in the same principle as origami. As the corners have excess material structurally, those parts are cut off and then protectors are attached. We applied this structure of the suitcase to the space. We cut metal sheets and installed them on the wall. Since it's a one-year limited pop-up shop, this was an effective idea as it could be made easily and quickly. This is also scenography that conveys the appeal of the brand.

**Patrick:** Rimowa's idea of bending metal to boost strength was inspired by the world's first metal passenger aircraft Junkers F.13 that was invented about a 100 years ago. We also looked into that kind of story while working on this



スイスの小さな村、ラ・ヌーヴヴィルにあるアトリエ・オイのオフィスはモーターをリノベーションしたもので、建物の内部はいくつもの小さな部屋に分かれている。工房やマテリアテック(素材のライブラリー)のほか、展示用のスペースもある。atelier oi's office in a small Swiss village called La Neuveville is a renovated former motel. It houses a studio, a materiothèque (material library), and even a display space.

Photo by Yves Andre

project. Along with the materials, such historical context became the starting point of the design and is expressed through the space.

#### You unveiled at this year's Milan Furniture Fair a series of products developed with manufacturers in woodwork, washi (Japanese paper), and lanterns in Gifu Prefecture.

**Patrick:** In the Gifu Prefecture project, we placed utmost importance on the local knowhow of making things in the area. What was most impressive in making things in Japan in addition to its culture was the fact handing down the knowhow itself has become part of the culture. Gifu Prefecture has knowhow in such materials as wood and paper that we can't even come close to. We visited production areas and observed the artisans' skills. We believe observing tradition more carefully equals seeing the future more profoundly, and if you want to encounter tradition, you should first meet people.

#### Among the various materials you encountered in Japan, what particularly caught your attention?

**Patrick:** Perhaps the compressed cedar lumber by Hida Sangyo Co., Ltd. As cedar is too soft as a material for furniture, they're creating new materials by compressing wood for hardening and bringing out the beauty of its grain.

**Aurel:** The feel of the compressed cedar was also new to me. Making a chair with this material is like making a sculpture. It's the same sensation as a sculptor polishing the surface of the material while removing excess parts. The chair in the Gifoi Collection was completed through that process.

#### We believe each country has extraordinary craftsmanship. Where do you think the characteristics of Japanese craftsmanship lies?

**Aurel:** It's the fact the spirit of handing down the knowhow is deeply rooted. They are also very conscious about respecting what the artisans make. In Europe these days, there are few specialized artisans among interior contractors, and it's been difficult to maintain quality. That's because people don't place value in making things by getting their hands dirty. Designers are the same. Many designers today spend most of their time facing the computer screen. There used to be a rich process including using watercolors for sketching and selecting paper for drawing.



10月28日から11月6日までアクシスギャラリーで開催される「アトリエ・オイ展 — material play」において発表されるシノグラフィ「エオル (ギリシャ神話の風の神)」。東京での初の個展では、素材から発想したデザインを中心に彼らの多岐にわたる仕事を見せるという。エオルでは動きや音とともに香りも重視する。Scenography piece *Eole* to be unveiled in the atelier oi—material play exhibition at AXIS Gallery from October 28 to November 6. The team's first solo exhibition will show its diverse work centered around design inspired by materials. In addition to movement and sound, fragrances also have an important role in *Eole*.

#### You often use the word "multidisciplinarity" to express yourselves. What do you mean by this?

**Patrick:** The Ecole Athenaeum de Lausanne where Aurel and I studied is a school for multidisciplinary. In other words, it aims for fostering human resources who pursue specialty fields but also become active transcending that specialty. We have been immensely influenced by the philosophy of Alberto Sartoris who founded the school, and there were many with similar thoughts among architects during his time. Sartoris was an architect of Italian origin, and a member of CIAM (Congrès International d'Architecture Moderne) that was established by Le Corbusier and others.

**Aurel:** Students studying architecture often listen to what design professors have to say and vice versa. They also get inspiration from poetry and artwork. Diverse specialty fields intermingle, and the school encourages going beyond the framework of architecture and design.

**Patrick:** We have been attracted strongly to Japanese architecture and design since we were students. One of the reason was that we already admired the work of Shiro Kuramata and Shigeru Uchida. If we had not needed to establish our office, we probably would have been working for a Japanese design office (laughs). I don't feel it's a coincidence that we're involved in multiple projects in Japan today. (Interview and text by Takahiro Tsuchida)

atelier oi was established in La Neuveville, Bern, Switzerland in 1991 by Patrick Reymond (born 1962), Armand Louis (1966), and Aurel Aebi (1966), all from Switzerland. Characterized by the diverse style and breadth of domain they handle while making use of their different backgrounds, atelier oi designs furniture, interiors, architecture, scenography, and more. Recent activity includes the topical Casa Gifu made jointly with a Gifu manufacturer and unveiled in Milan. Their atelier oi—material play exhibition will be held at AXIS Gallery from October 28 to November 6, and atelier oi—inspired by material will be held at CCC, the Center for Creative Communications, in Shizuoka City from November 11 to 27.

Cover interview

atelier oi